

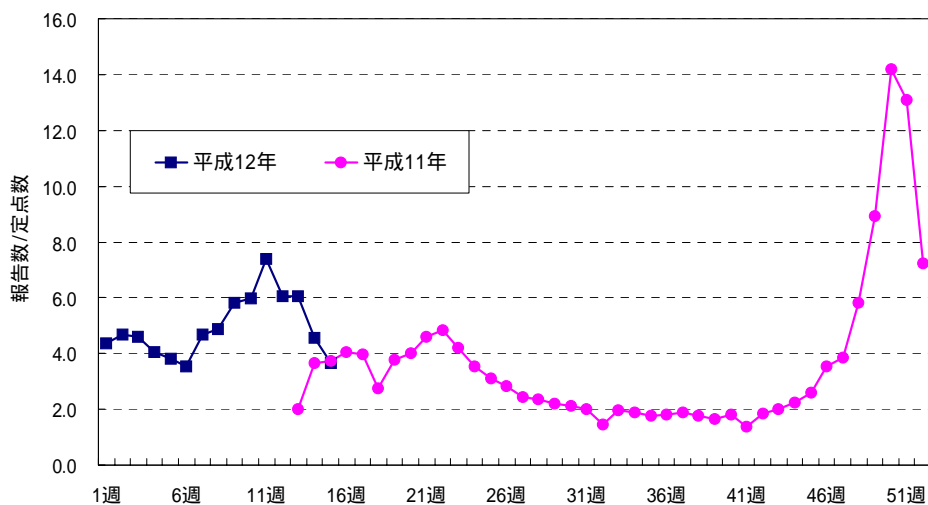
愛知県感染症情報

平成 12 年第 15 週（4 月第 2 週）

（コメント）

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎の報告数は減少に向かっています。

水痘は、去年は増加、減少を繰り返して 5 月中旬にピークをむかえています（第 14 週にグラフ掲載）ので注意が必要です。



感染性胃腸炎（名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から）

（先生方からのコメント）

- ・ ロタウイルス（+）2才男。溶連菌感染症の児が増えてきました。
（豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科）
- ・ ムンプスと水痘の二重感染例あり。百日咳は DPT（三種混合）未接種。ミルク摂取不良にて入院。
（豊橋市 富田小児科）
- ・ 病原性大腸菌0-1 2ヶ月女
（蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院）
- ・ ヘルペス歯肉口内炎 1才男
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ ロタ 1才男
（岡崎市 医療法人深田小児科）
- ・ 嘔吐下痢は減ってきました。ヘルペス性口内炎の兄弟例がありました。
（西尾市 やすい小児科）

- ・ 溶連菌感染症と水痘がポツポツ。感染性胃腸炎減少
 (豊田市 やふそ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 0-18 2名(3才男、1才男)、0-6 2名(3才女、4才女)
 ロタウイルス腸炎 8ヶ月男
 (豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 2名
 (美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ サルモネラ腸炎(0-9)の親子例ありました。(1才、27才)
 (瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 嘔吐、下痢減少傾向です。
 マイコプラズマ肺炎、学童で目立ってきました。
 水痘、突発性発疹症流行。
 (尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ 水痘が流行しています。ムンプスも見られます。感染性胃腸炎は少なくなりました。
 (春日井市 かがわ北病院)
- ・ 高熱を伴うウイルス性気管支炎が散発(アデノか?)
 ロタ胃腸炎減少。無菌性髄膜炎1例
 (小牧市 小牧市民病院)
- ・ 水痘 2才女
 マイコプラズマ肺炎2名(4才男、35才女)
 感染性胃腸炎48名中には、病原性大腸菌感染症2名(0-25 2才女
 0-125 2才男)、糞便ロタウイルス抗原陽性者 10ヶ月女、糞便アデノウイルス陽性者5名(10ヶ月男、2才女、3才男、4才女、8才男)
 (尾西市 城後小児科)
- ・ 胃腸炎おちついてきました。
 (岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 0-6 VT1、VT2(-) 1才男、0-1 VT1、VT2(-) 2名
 (2才男、1才男)
 (江南市 河野小児科)
- ・ 感染性胃腸炎も減少してきました。
 (扶桑町 いずみ内科)
- ・ 一時減少していましたが感染性胃腸炎が再び増加しています。喘鳴を伴う気管支炎も増加しています。
 (江南市 みやぐちこどもクリニック)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌保有者 1 名。

安城保健所から報告の 55 才男、4/5 初診、4/10 診定、菌型は O-157

細菌性赤痢患者 1 名。

豊田市保健所から報告の 51 才男、4/10 発病、4/12 初診、4/15 診定、菌型はボイド。インドネシア渡航歴あり

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

梅毒患者 1 名。

急性ウイルス性肝炎 B 型患者 1 名

レジオネラ症患者 1 名

第 13 週 (平成 12 年 3 月 27 日 ~ 4 月 2 日) の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数が例年の同時期より多い。感染性胃腸炎は患者報告数が多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、1 歳児と 2 歳児で全体の約 3 割を占め、ピークは 1 歳にある。水痘は沖縄県で定点当たり 5.2 の報告がある。麻疹は依然流行のみられる大阪府、千葉県、香川県に加え、兵庫県、岐阜県、滋賀県でも患者報告数が多くなっている。非流行期の流行性角結膜炎の定点当たり報告数が例年より多くなっており、宮崎県で定点当たり報告数が 4.0 、茨城県で 3.6 、滋賀県で 3.0 となっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2000 年 3 月 10 日号 (75 巻 10 号)

集団発生：マダガスカルのコレラ。99 年 12 月から 00 年 3 月までに 12,481 例 (死亡 736 例)。昨年 3 月～11 月では 8,665 例 (死亡 490 例)。WHO は発生の主体である同国北部地区で対策作戦展開中。

メジナ虫 (Dracunculiasis. 注：寄生虫症。中間宿主はミジンコ。汚染された生水飲用で寄生虫卵感染。成虫は腸管から体内を移動して下腿や足関節で尾部を露出、産卵。下腿や足関節の炎症、潰瘍、運動障害)。世界における対策の進捗。最大の問題地区はアフリカ、特に地方病として常在しているのがベニン、ブルキナファソ、中央アフリカ、象牙海岸、エチオピア、ガナ、マリ、モリタニア、ニジェール、ナイジェリア、スダン、トゴ、ウガンダ。南北アメリカではほぼ根絶され、東地中海地区、欧州 (シルクロード添いの旧ソ連諸国は常在地であった) においても根絶。西大西洋地区も根絶、東南アジア地区ではインドが常在地区として重要であったが最近の報告では消失している。安全な水供給の一つの指標として今後も監視の必要が重視されている。

東地中海地区における感染症対策の将来予測：感染症を含めた各種疾患の将来予測に関する総合的なコメント。

インフルエンザ。00 年 2 月。カナダ：A 型 H3N2 シドニタイプと A 型 H1N1 のニューカレドニアタイプ。クロアチア：A 型 H3N2、英国：減少中、米合衆国：減少。殆どが A 型 H3N2 で一部 A 型 H1N1 であった。

3 月 3 - 9 日届出。コレラ：ソマリア、ザンビア。

2000 年 3 月 17 日号 (75 巻 11 号)

緊急発生：ラッサ熱。英国の輸入例。50 歳英国人。シェラレオネ (注：西アフリカ) の田舎で勤務後帰国。発病。ロンドンの中央公衆衛生研究所でウイルス学的に確認され、現在接触者の検査実施中。患者自身の状況はやや改善したものの重症。

ブルリ潰瘍 (注：細菌感染症、特にマイコバクテリア感染などで熱帯途上国にみられる細菌感染性潰瘍。通称熱帯潰瘍。下肢、足底などに時には筋肉や骨に達する潰瘍形成) についてガイドラインが作成された。

国際検疫感染症の 00 年 3 月 16 日時点における発生地区：ペスト (アフリカ地区や南北アメリカ、ベトナムが目立つ) とコレラ (熱帯地区全域)、黄熱 (アフリカと南米) の各国の州・県単位の一覧表。

インフルエンザ：本年 3 月。ギリシャ、エジプトいずれも A 型 H3N2。タイでは A 型 H1N1 が多かったが減少中。

世界のポリオ：99 年における届出。南北アメリカ、欧州はゼロ、西太平洋地区も中国の輸入例 1 例をのぞき根絶出来ているが、99 年の年間報告数としてインドの 2,645 例、アンゴラ 1,103 例、ナイジェリア 967 例、パキスタン 466 例、バングラデシュ 335 例、ケニア 155 例、アフガニスタン 141 例が目立っている。

3 月 10 - 16 日届出。コレラ：ザンビア、インド。ペスト：米合衆国。